意見表明について

こどもや若者の意見

児童の権利に関する条約・意見表明

モニター調査（1回目）

①児童の権利に関する条約（こどもの意見表明）の認知度を調査しました。

小学3年生以下 知っている 22名(27.2%) 言葉だけ知っている5名(4.2%) 知らない86名(72.9%)

小学4年生以上 よく知っている 14名(4.8%) 知っている45名(15.4%)
言葉だけ知っている92名(31.4%) 知らない142名(48.5%)

②「大人は自分の意見を聞いてくれていると思いますか。」について、調査しました。

小学3年生以下 聞いてくれている99名(83.9%) どちらでもない17名(14.4%)
聞いてくれない2名(1.7%)

小学4年生以上 聞いてくれている190名(64.8%) どちらでもない68名(23.2%)
聞いてくれない27名(9.2%)

③大人が意見を聞いてくれているかの結果と、幸福度の関係性を分析しました。

	とても幸せ	幸せ	どちらでもない	不幸せ
聞いてくれる	150人(51.9%)	124人(42.9%)	14人(4.8%)	1人(0.3%)
どちらでもない	20人(23.5%)	46人(54.1%)	17人(20.0%)	2人(2.4%)
聞いてくれない	4人(13.8%)	9人(31.0%)	10人(34.5%)	6人(20.7%)

ヒアリング調査

④「大人は意見を聞いてくれているか。」について、聴きました。

話を聞いてくれているとの意見が多数でしたが、話を全部聞いてくれない（小学生）、話を最後まで聞いてくれないと言いたくない（中学生） 反論されてしまう（高校生）、意見を言っても意味が無いと思う（大学生）といった意見もありました。

反映状況

①②④

P6,7 (2) こどもの人権意識

調査結果やヒアリング内容を掲載しました。

③

P29 (2) こどもや若者の意見表明と社会参画

図表36にて分析結果を掲載しました。

こどもの意見を聴くことは幸福度に影響すると考えられます。

県では今後

**こどもが権利の主体であることを県民に周知するため
広報活動に取り組み、意識啓発を推進します。**

**P27 (ア) a こどもが権利の主体であることの情報発信、
意識啓発**

意見表明について

こどもや若者の意見

意見表明

モニター調査（1回目）

- ①大人に意見を聞いて欲しいと思うか、またその理由について調査しました。
「大人に意見を聞いて欲しい」と回答したのが、315人となりました。

理由（複数回答）	回答数
伝えたいこと、聞いて欲しいことがあるから	161人(51.1%)
伝えなければ相手が分からないかと思うから	80人(25.4%)
重要な意見だから	55人(17.5%)
伝えることで利益が得られると思うから	39人(12.4%)
意見を伝えれば反映されると思うから	37人(11.7%)
意見を伝えることが好きだから	34人(10.8%)
意見を伝えることに慣れている／得意だから	27人(8.6%)
その他：正直にいたい、大人の意見に矛盾を感じる、相手の意見も聞きたい、意見交換すべき	

ヒアリング調査

- ②「大人に意見が言いにくい理由」についての主な意見
大人と話すのは緊張する（小学生）、意見を言うと怒られる（小学生・中学生）
（大人は）話を最後まで聞いてくれない（小学生・中学生）
- ③「大人に意見を言いやすい時」についての主な意見
否定せず最後まで話を聞いてくれる時（小学生）、怒ってない時（小学生）
- ④「大人に意見を言いやすい方法・環境」についての主な意見
対面であること。頼れる大人がいること。

反映できなかった主な意見

- ①大人は、こどもにダメと言うのに自分が同じ事をしても許される。大人だから良いのと言われるのは、ずるい。（小学生）

反映状況

①②③④

P29～(2) こどもや若者の意見表明と社会参画
図表35に調査結果及びP30にヒアリング内容を記載しました。

県では今後

全てのこどもや若者について意見を表明しやすい環境づくりを進めるとともに、県の施策においても参画を促進します。

**P30 (ア) a 意見を表明しやすい環境づくりの推進
b 県の政策決定過程へのこどもの参画促進**

反映できなかった理由

- ①発達段階に応じた個々の事情が大きく影響するため計画には反映できませんでした。間接的ですが、P28(2) こどもや若者の意見表明と社会参画において、こどもの意見を聞く重要性を記載しています。

居場所について

こどもや若者の意見

居場所

モニター調査第2回

①放課後／休日どこで過ごすことが多いかについて調査しました。
「自分の部屋」、「家族が居る部屋」の項目が最多となりました。

②居場所と感ずる場所の多寡と幸福度との関連性を分析しました。

	とても幸せ	幸せ	どちらでもない	不幸せ
たくさんある	42人(63.6%)	24人(36.4%)	0人	0人
いくつかある	62人(43.1%)	67人(46.5%)	14人(9.7%)	1人(0.7%)
ある	27人(36.5%)	37人(50.0%)	8人(10.8%)	2人(2.7%)
ない	23人(27.1%)	33人(38.8%)	21人(24.7%)	8人(9.4%)

③こども食堂の認知度を調査しました。

小学3年生以下 行ったことがある 13人(10.7%) こども食堂を知らない64人(52.5%)

小学4年生以上 行ったことがある 35人(14.2%) こども食堂を知らない42人(17.1%)

④居場所として求める要素を調査しました。

気軽に行ける。交流ができる場が欲しい。安全な場所・安心できる場所。相談ができる、色々なことが言える場所。

公園：広い、ボール遊びができる、遊具が多い。

図書館：混雑していない、自習スペースがある。

ヒアリング調査

⑤「居場所として、どのような要素を求めるか」についての主な意見

みんなが安心できる場所（小学生）、親がいなくても安心できる場所（小学生）

気軽に相談が出来る場所（小学生）、1人でも入れるこどもが相談できる場所（小学生）

⑥居場所に関する自由意見

外で遊ぶことが多い、公園が楽しい。（未就学児）

反映できなかった主な意見

①特定の遊園地、商業施設、飲食店、アミューズメント施設を県に増やして欲しい

②こどもだけしか入れないショッピングモールやゲームセンターが欲しい

反映状況

①P36に結果を掲載しました。

②P66図表60に結果を掲載しました。

⑤P36に安全・安心を求めている意見があること、相談ができること、様々な意見が言える居場所を求める意見がある旨を掲載しました。

④P11に地域との関わりが薄いと思われる中、こどもは交流ができる場所が欲しいという意見がある旨掲載しました。

県では今後

誰一人取り残さないようこどもとともにこどもの居場所づくりを推進します。

公共施設の遊び場や子育て関連施設の充実を図り、こどもが安全に遊べる環境づくりを推進します。

P66(ア)こどもの居場所づくりの推進

P68(ウ)こどもまんなかのまちづくり

反映できなかった理由

①②民間運営の施設であり、こども計画には反映できませんでした。県では公共施設の遊び場の充実や(P68)、自然体験、文化芸術体験、職場体験等の整備及び体験、交流活動等の場の整備(P35)の側面から遊び場を創出していきます。

特に②については、防犯、交通安全対策、防災意識の向上(P38)を推進している観点からも実現は難しいものと考えられます。

その他の意見

こどもや若者の意見

その他

モニター調査第2回

- ①大学や塾に行くことをお金を理由で諦めることがないようにしてほしい。（高校生）
- ②高校や大学へのお金が負担となる。（高校生）
- ③不登校のこどもが学びに遅れを取らず次回登校時の負担を軽減してほしい。（中学生）

ヒアリング調査・モニター調査の自由意見

- ④周囲に街灯が少ない。（中学生）
- ⑤海、山、川、森など自然が多い場所が楽しい。（小学生、中学生、高校生、大学生）
- ⑥学校の校則を無くしたい、ルールが多い。（小学生）
- ⑦男女平等に扱って欲しい。差別をしないで欲しい。（小学生）

- ①娯楽品（ゲーム、カード等）をもっと買いたい。お小遣いをあげて欲しい。
- ②勉強が嫌だ。宿題が多すぎる。授業の時間をもっと短くして欲しい。
- ③親は理不尽だ。大人だからといって偉そうにするのを止めて欲しい。

反映状況

- ①②P40に意見を掲載しました。
- ③P63に意見を掲載しました。

県では今後

- ①②**全てのこどもが家庭の経済状況にかかわらず質の高い教育を受け、魅力や可能性を最大限に伸ばして、それぞれの夢に挑戦できるよう支援します。P45(ア)教育の支援**
- ③**全てのこどもが教育を受ける機会を確保できるよう、学びを希望したときに学びにアクセスできる環境を整備します。P63(イ)不登校のこどもへの支援**
- ④**こどもや若者、子育て家庭が居場所としている公共施設の充実を図ります。**
- ⑤**こどもの発達段階に応じた自然体験の充実を図ります。P35(ア)a 自然体験、文化芸術体験、職場体験等の体験活動の推進**
- ⑥⑦**こどもが自ら校則を考える仕組みを構築し、研修等による、教職員の体罰や不適切指導の防止に取り組みます。P39(エ)不合理な校則の見直し、体罰や不適切な指導の防止**

反映できなかった理由

- ①②③家庭環境や学校の考え方、発達段階に応じた個々の事情が大きく影響するため計画には反映できませんでした。間接的ですが、P28(2) こどもや若者の意見表明と社会参画において、こどもの意見を聞く重要性を記載しています。